



獲物を捕らえるための大きな口!

アメリカ合衆国南東部に生息しているんだ。  
体が大きくて陸上では動きが鈍いようにも思えるけど、意外と素早く動くことができるんだよ。  
泳ぎも得意で、太くて丈夫な長い尾を左右に振って自由に泳ぐことができるんだ。なんと水中からジャンプすることだってできるんだ!

自分よりも大きな獲物でも噛みついて離さない! 水中に引きずり込んで溺れさせ、体を回転させながら引きちぎって食べるんだよ。  
獲物を捕らえるための大事な歯は、古くなると抜けて新しい歯に生え変わるんだ。  
まさに「水辺の王者」なのさ!



# ZOOと平川



平川動物公園に来たら、レストランでも動物を楽しもう!

<p>おもちゃ付き!</p> <p>聞いた中はトロトロッ♪本橋オムレツ</p> <p>※おもちゃは定期的に変わります</p>	<p><b>こぐまのオムライス 660円</b></p> <p>食べるのがもったいないぐらいかわいいこぐまちゃん。中がトロトロのオムレツを真ん中から切り開いてチキンライスをくるめば洋食屋さん風! おもちゃも楽しみ!</p>
<p>大好評!</p> <p>目と鼻はチョコスナック、耳はラング・ド・シャのチョコサンド。</p> <p>パーツまで美味しい!</p> <p><b>コアラソフト 280円</b></p>	<p><b>コアラソフト 280円</b></p> <p>目と鼻はチョコスナック、耳はラング・ド・シャのチョコサンド。 パーツまで美味しい!</p>
<p>ホワイトタイガー</p> <p>コアラ</p>	<p><b>おこさまカレー(ホワイトタイガー・コアラ) 各420円</b></p> <p>平川動物公園の2大人気者ホワイトタイガーとコアラがニッコリ! お子様向けの甘口カレーです。</p>

食堂おすすめメニュー



特集1

飼育員の一日(ふれあいランド編)

特集2

環境エンリッチメントってなんだ??

特集3

ボルネオ島訪問(後編)「ボルネオゾウに出会えた!」



# 飼育員の一日



ふれあいランド編

飼育担当者:堀田、加藤、仮屋

私たち3人が担当しています。ふれあいランドではトカラヤギ、ヒツジ(サフォーク種)、トカラウマ、ロバ、モルモット、ウサギ、チンチラを飼育しています。

## トカラヤギ

トカラヤギは、今から1500年ほど前に中国や朝鮮半島から伝わった鹿児島県トカラ列島の在来家畜です。体は丈夫で、粗食に耐えられるので、荒地でも生活できます。体重は25~40kgほどで、ヤギとしてはやや小型です。背中に黒い線(鰻線)が見られるのが特徴です。近年、外来種のヤギとの雑種化が進み、純粋なトカラヤギは少なくなっています。平川動物公園では現在オス6頭メス7頭の13頭を飼育しています。

- <学名> *Capra hircus*
- <英名> Tokara Goat
- <分類> 偶蹄目(ウシ目)ウシ科
- <生息地> 鹿児島県トカラ列島
- <主食> 草食性



可愛らしい顔をしています  
背中の黒い線(鰻線)が特徴

## その他の担当動物



ヒツジ(サフォーク種)



トカラウマ



ロバ



モルモット



ウサギ



チンチラ

## ある日のスケジュール

8:15~

### 朝の担当動物の観察と展示場の点検

朝一番で動物の様子を観察し、異常の有無やエサの残り具合を確認します。また展示場の安全も確認します。

8:30~

### 牧場のエサのセットと放飼

それぞれの展示場に朝のエサを設置します。同じ牧草にみえても、動物種や個体によって与えている牧草の種類や割合が異なります。体型、年齢、体調、好みなどに合わせて与えています。動物たちはエサに向かって勢いよく飛び出していきます。また、投薬の必要のある動物には、朝のこの時間に薬を与えることが多いです。

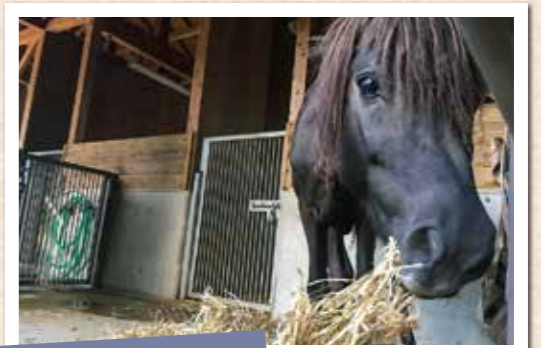


朝の様子

苦い(?)薬はニンジンに挟んで与えています



元気いっぱい牧草(チモシー)を頬張っています



9:00~

### 牧場寝室の清掃

夜間に牧場の動物たちが休んでいた部屋の清掃を行います。ヤギとヒツジの糞はコロコロと小さめ。ウマとロバの糞はピンポン玉くらいのサイズです。頭数が多いので、運び出す敷きわらや糞の量もたくさんになります。10時のタッチングコーナーオープンに向けて手早くきれいにしていきます。





## 10:00～ 午前のタッチングコーナーオープン

ウサギ・モルモットと触れ合うことのできるタッチングコーナーには、毎日たくさんの来園者が訪れます。安全に触れ合いを楽しんでいただけるよう説明をしてから手渡します。

モルモットは背中を  
やさしく触ってね



## 11:30～ ウサギ・モルモットの給餌

ふれあいの時間が終わるとエサの時間になります。ペレット(固形飼料)だけでなく、水分を多く含むキャベツ・ニンジン・リンゴを与えることで尿石症という病気の予防をしています。また、牧草を与えて前歯の伸び過ぎを予防しています。



## 12:00～ 休憩

昼食をしっかり食べて、午後からの作業に備えます。

## 13:00～ ミーティング

動物の状態や作業内容、イベントなどについて報告し、情報の共有を行います。

## 13:30～ 午後のタッチングコーナーのオープン

モルモットは約50頭、ウサギは約20頭が毎日交代でふれあいに出ています。



## 15:00～ ウサギ・モルモットのエサ準備

たくさんの個体が群れでくらすしているので、みんなで仲良く食べられるように、野菜は細かくカットします。

強い個体が独り占め  
しないように細かくカット



## 15:15～

### しゅうよう 牧場の収容準備

夕方のエサや敷きわらを寝室に用意します。

ヒツジの部屋には  
毛が汚れないよう  
敷きわらをセット



## 15:30～

### 各動物の収容、展示場の清掃

動物たちを部屋に帰し、昼間過ごしていた展示場を綺麗に掃除します。



おかえりなさい、  
ゆっくり休んでね



明日も気持ちよく過ごせる  
ようにきれいにお掃除

## 17:00～

### 日誌記入、業務終了

その日あった出来事を細かく記録します。毎日の出来事の記録は、今後の飼育業務に活かされます。今日も1日お疲れ様でした！

### 日常業務の ほかに...



年に一度、春にはヒツジの毛刈りを行います。家畜のヒツジの毛は自然に生え変わることがないので、暑くなる前に飼育員の手でスッキリしてもらいます。



「大人のための羊毛教室」や「羊毛工作教室」など刈りとったヒツジの毛(羊毛)を用いた講座を開いており、身近なようで普段なかなか知ることのできないヒツジについて知ってもらう機会となっています。

### 飼育員からひとこと

動物と直に触れ合うことのできる「ふれあいランド」は、年間を通して多くの来園者の方々に楽しんでいただいている人気エリアのひとつです。

ウサギやモルモット、ロバなど一般的な家畜動物の他、トカラウマ、トカラヤギといった貴重な鹿児島由来の家畜も展示しています。純粋な在来家畜を守っていくこと、またそのためにも在来家畜について広く知っていただくことは動物園の使命でもあります。

動物に直接触れるときは皆さん少しドキドキしますよね。動物たちにとってもそれは同じです。触れ合うときには、動物の気持ちを考えることがとても大切です。「ふれあいランド」が動物に対する優しい気持ちを育む場所であるよう、今後も職務に励んでいきたいと思っております。



担当者：堀田、加藤、仮屋



# 環境 エンリッチメント ってなんだ??



環境エンリッチメントとは動物の福祉や健康のために飼育環境に変化を与えることをいいます。例えば野生の生活と同じ行動をできるようにしたり、**選択肢**を増やしてあげることで動物に適切な行動と刺激を与えることができます。

平川動物公園ではどのようなことをしているのか**猛獣ゾーン**での取り組みをご紹介します。

## クロヒョウへの匂いつけエンリッチメント

クロヒョウの展示場に消防ホースのおもちゃを吊り下げています。このおもちゃにはキャットニップ(西洋マタタビ)が吹き付けられています。普段嗅ぎなれないにおいをつけて、嗅覚を刺激するエンリッチメントです。クロヒョウはぺるぺる舐めたり、噛んだり自分なりに楽しんでいました。



## シンリンオオカミへのシカの角エンリッチメント

シンリンオオカミは野生下でシカの仲間を狩り、食べています。シカの角も噛んでいるだろう!ということで与えました。野生下での行動を発現させるエンリッチメントです。オオカミは噛んだり舐めたりした後、自分で掘ったお気に入りの穴にしまっていました。



## ホッキョクグマへのガス管エンリッチメント

ホッキョクグマのプールにガス管を入れてあります。抱えたり踏みつけたりしています。野生下でのアザラシを狩る行動を引き出すエンリッチメントです。毎日同じ物だと飽きてしまうのでカラーコーン等様々な物を入れてあります。



## マレーグマへのガス管エンリッチメント

マレーグマの展示場にガス管を吊り下げています。中にはリンゴが入っていますが簡単には取れないようになっています。採食行動に時間をかけることで退屈な時間を減らすためのエンリッチメントです。口や爪を器用に使って食べています。慣れてくるとすぐに食べきるので、毎回高さを変えています。



## 同居させることもエンリッチメント～今後の取り組み～

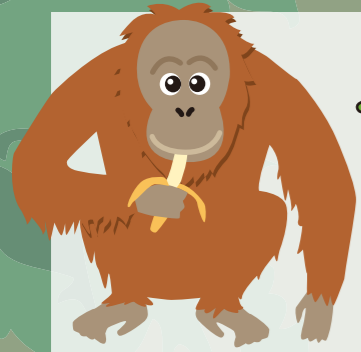
現在平川動物公園ではヤブイヌをオス・メス1頭ずつ飼育しています。しかしこの2頭はあまり仲が良くなく一緒に暮らすことができていません…。

本来ヤブイヌは群れで暮らす動物です。群れで暮らすと、他個体とコミュニケーションがとれたり、繁殖することができます。飼育下でも群れで暮らすことが環境エンリッチメントに繋がります。

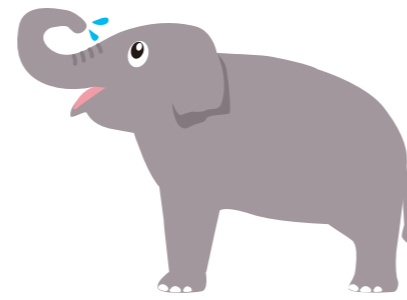
今いる2頭が仲良く一緒に暮らせるようにサポートしていきたいと思っています。今後のヤブイヌたちにご注目ください!







# ボルネオゾウに 出会えた!



## ボルネオ報告 後編

ボルネオ島訪問の際に3カ所のゾウ保護施設(セピロック・オランウータン・リハビリテーションセンター、ボルネオ・エレファント・サンクチュアリ、ロッカウィ・ワイルドライフパーク)を訪ねました。これらの場所では様々な年代の保護されたゾウに会うことができました。農園の作物をゾウが荒らすなど、人とゾウの関係悪化が進む中、多くのゾウがひそかに処分され、孤児となった仔ゾウが保護施設に運び込まれているのです。セピロック・オランウータン・リハビリテーションセンターでは



▲沼の中で水浴びするゾウ

オランウータンの施設であるにもかかわらず、保護されたゾウがくらしていました。元気よく沼の中で水浴びしてはいますが、ここに連れてこられた経緯を知ると複雑な気持ちになってしまいます。



ボルネオ・エレファント・サンクチュアリでは、ボルネオ保全トラストジャパンと旭山動物園が共同で建設したレスキューセンターを見学しました。ここには3頭のゾウがいますが、そのうちの1頭は保護されたばかりの幼いゾウでした。ロッカウィ・ワイルドライフパークでは14頭のゾウを飼育しており、群れに複数のオスがいるのは圧巻でした。日本の動物園ではなかなか見ることができない光景です。



▲ボルネオ・エレファント・サンクチュアリで飼育中のゾウ



▲新たな施設を建設中だが工事が中断(ボルネオ・エレファント・サンクチュアリ)

ただし、明らかに収容頭数は飽和状態であり、ゾウは長生きする動物であることと新たにレスキューされたゾウが連れてこられる可能性を考えると、今後に不安を感じてしまいました。



▲川を渡るゾウたち



▲苗木を植えたばかりの広大なプランテーション

翌日は特別にゾウたちが侵入していたアブラヤシのプランテーション(大規模な農園)の中に入れてもらいました。私たちがゾウを目撃した周辺は川沿いの一部を除くと広大なアブラヤシのプランテーションが規則正しく区画割りされていて広がっていました。かつては広大な熱帯雨林があった場所のはずです。少し離れたところに天然林はありますが、プランテーション内を横切らないと移動は不可能です。生息地の分断とは

こういうことなのだと思感しました。わずかに残された森で細々とゾウたちが生きています。そのような生き方をさせているのは間違いなく私たち人間なのです。今回のボルネオ島訪問では、一部ではありますがボルネオ島で今起こっていることを感じる事ができました。動物園での活動を通じて、少しでも多くの人々に今回の経験を伝えられたらと考えます。



▲プランテーションの中にゾウの糞が...



▲ゾウにより倒されたアブラヤシ



# イベント実施報告

11月4日、“秋の動物公園まつり”最終日を飾った4つのお楽しみイベントについて紹介します。いずれも飼育員がこれまでにない視点で企画した新規イベント。多くのお客様を笑顔にすることができました。

1つ目は、「ユウカリでスワッグ作り」。コアラだけでなくエサのユウカリにも興味を持っていただきたいという飼育員の思いが込められたイベントです。飼育員によるユウカリについての解説を聞いた後、いよいよユウカリを使ってスワッグ作りを開始。種類ごとに違う葉っぱの形や匂いまで上手に組み合わせ、素敵な一品をお持ち帰りいただきました。

※“スワッグ”とは、花や葉を束ねて作る壁飾りのこと。



▲スワッグ作りの様子



▲完成したスワッグ

2つ目は、「クマにドングリのプレゼント」。野生でも食べているドングリをクマが工夫して食べる様子をお客様に見ていただきたいという思いから企画したイベントです。竹筒で作った容器にみんなで拾い集めたドングリをたっぷり入れてツキノワグマとマレーグマ、エゾヒグマにプレゼント。竹筒に空けた小さな穴から器用にドングリを取り出すクマたちにお客様も拍手喝采。豪快に見えるクマたちの繊細な一面を紹介することができて、飼育員もニマリです。



▲ドングリを竹筒に詰めます



▲工夫してドングリを食べるクマたち

3つ目は、「ソテツの実でサルのお守り作り」。サル舎近くに生えているソテツは、前身の鴨池動物園から移植してきた歴史ある物です。園内のサルたちは全部で22種。その実にお気に入りのサルの顔を描いてオリジナルのお守りを作っていただきました。お客様からじっくりと観察されるモデルのサルたちは、心なしかちょっとすまし顔。おかげで特徴を捉えた味のあるお守りを作ることができたようです。



▲完成したお守り



▲上手に出来たよー

最後は、「飼育員の親バカ写真展」。

飼育員だからこそ撮影することができた動物たちのノビノビとした表情やアッと驚く決定的瞬間、展示場の裏側での作業風景など、たくさんの写真を展示しています。サブタイトルに〜ウチの子こんなにかわいいんです〜とあるように、写真に添えられた飼育員のコメントからは、動物たちへの愛情があふれています。



# 調査研究報告

動物園の役割の一つに「調査研究」があります。動物の飼育を通して得られた知識や情報は動物の飼育技術の向上だけでなく、動物園を訪れる方々へ広く公開することにより動物への理解を深めることができます。また、野生動物の生息地での保全活動に活用することもできます。

## ●2019年(2019.1.1~2019.12.31)に行った研究発表

実施月	研究タイトル	場所	研究会名	発表者
2月	ベンガルトラの胃炎の検査、治療の一例	マリンワールド 海の中道(福岡市)	第34回九州沖縄ブロック動物園水族館獣医師臨床研究会	前谷史恵・桜井普子・伊藤綾夏・浅井隆之(鹿児島市平川動物公園)・大塚美加・濱野剛久(かごしま水族館)
6月	Enrichment Projects Conducted with the Japanese Wild Boar and the Japanese Raccoon Dog, the local animals of Kagoshima	京都大学百周年時計台記念館	第14回国際環境エンリッチメント会議	Megumi Kouno・Azusa Kawakubo
7月	ヤブイヌの化膿性甲状腺炎	熊本市動植物園	第35回九州沖縄ブロック動物園水族館獣医師臨床研究会	伊藤綾夏・前谷史恵・浅井隆之・桜井普子
11月	鹿児島県に生息する希少種(特にツル類・奄美群島生息種)の傷病個体の生息域外保全への活用	札幌パークホテル	第21回種保存会議	落合晋作・海道夢紀・福守朗・日高愛子・前谷史恵・伊藤綾夏・桜井普子
11月	日本の飼育下コアラにおけるレトロウィルス検査により得られた知見について	札幌パークホテル	第21回種保存会議	前谷史恵・永榮大樹・望月京也・伊藤綾夏・桜井普子・伊藤ななお・浅井隆之(鹿児島市平川動物公園)小原恭子・大和修(鹿児島大学共同獣医学部)
12月	アジアゾウにおける分離飼育と雌雄同居飼育での行動比較	東京都多摩動物公園	第29回ゾウ会議	松元悠一郎・落合晋作・海道夢紀・菊村風穂
12月	平川動物公園における野生生物保全への取り組み	ニチイ学館(神戸市)	ボルネオ保全シンポジウム	福守朗